PROJECT CONCEPT / 2026.10

# Portable GOZA

# ポータブルゴザ

## 畳の種を、街へ。

古ゴザから生まれた、持ち歩ける敷物。

tatami.boy



# 畳と人が出会う機会を増やす。



THE SMALLEST SPARK

## 「畳っていいな」

「畳っていいな」と思う瞬間を、
家の外にもつくりたい。

まず増やしたいのは畳との接点。購買や市場拡大は、その先にある可能性。

# はじまりは、
# 畳屋の現場だった。

## 捨てるには、まだ惜しい。

まだ使えそうな古ゴザがある。

## 作り替えるのが楽しい。

古いものに、別の役割を見つける。

## 人とつなげたら何か起きる。

行き先も使い方も、最初から決めない。
まずつくって、誰かに託してみる。



# 古ゴザからつくる、持ち歩ける畳。

畳替えで出た畳表に、外で使うための新しい役割を与える。



| | |
|---|---|
| 素材 | 張替えで出た畳表を、<br>携帯しやすい大きさに加工 |
| 使い方 | 使用済みの表面を<br>地面側にして敷く |
| 座る面 | 元の裏面を<br>座る側に活用 |
| 構造 | **古ゴザ・留め具・棒・ストラップ** |

原型はNOFFとtatami.boyが共同開発。その後、tatami.boyが構造や使い方の提案を改良。

# きっかけは、3つの違和感。

社会の問題を一挙に解決するのではなく、小さな選択肢を増やす。



01

## 古ゴザの廃棄

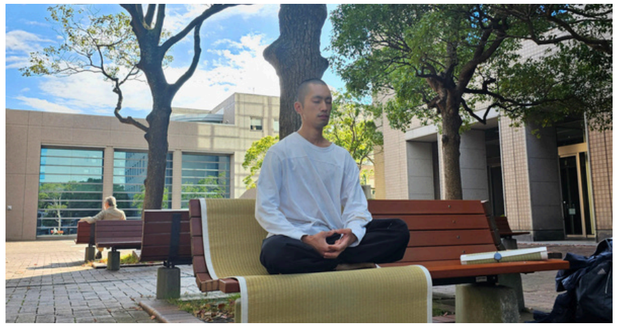
まだ使える面があっても
張替えで役割を終える。



02

## 畳との接点の減少

家の外では畳を
見たり触れたりしにくい。



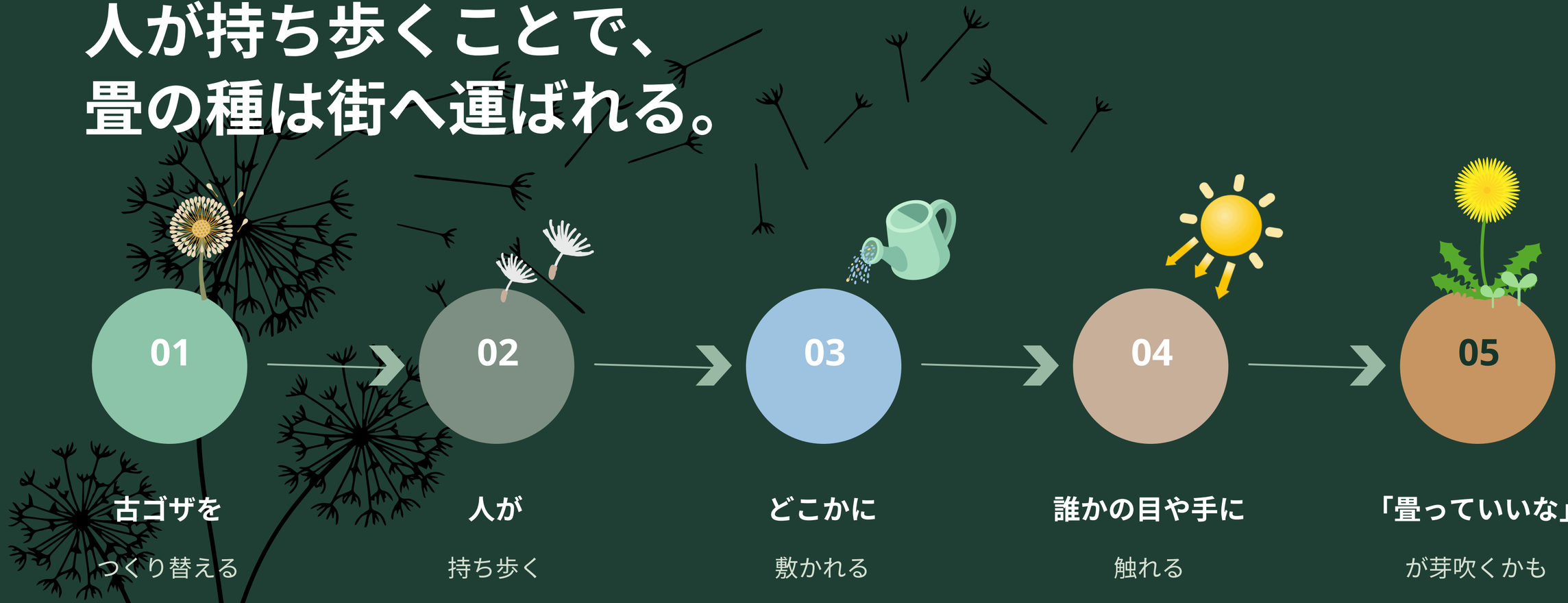
03

## 街でくつろぐ選択肢

座る・寝転ぶ場所を
自分でつくれたら面白い。

廃棄を減らすだけでなく、畳と出会う場所そのものを増やす。

# 人が持ち歩くことで、畳の種は街へ運ばれる。




これは目指している変化の仮説。「畳っていいな」という反応や需要の増加は、これから確かめていく。

# なぜ、畳を持ち出すのか。

身体を預けられ、場所の使い方を変えられる。畳には、敷物以上の余地がある。



## 建材かつ縫い物という独自性

人のクリエイティブの余地がある建材。

## 身体を預けられる

座るだけでなく、寝転ぶこともできる。

## 敷くだけで居場所をつくる

いつもの場所に、くつろぐ領域が生まれる。

畳のある部屋を増やすのではなく、畳の表面を、さまざまな場所へ運んでいく。

# 敷く場所も、使い方も自由。

これまでに試された使い方の一部。



公園で寝転ぶ



街角で休む



サイクリング



かまくらの中



商品陳列に使う



人と集まる

# いつもの場所が、
# 居場所に変わる。

## 落ち葉の上に敷いて、秋の空を見た。

ポータブルゴザを一枚敷くだけで、
「通り過ぎる場所」が「過ごす場所」になる。

家の中で親しんだくつろぎ方を、
家の外にも持ち出してみる。



# 続けてつくれるように、複雑にしない。

耐久性と製作の容易さが衝突するなら、現段階ではつくりやすさを優先する。

PRIORITY

## つくりやすさ

端のパイピング縫製などを省き、
どこの畳店でも再現しやすい形を目指す。

TRADE-OFF

## 有限の耐久性

耐久性は限定的。使い切った後は、
古ゴザ部分を交換する方法も検討中。

耐用期間は未測定。「1年程度か、それ未満」は設計上の許容感であり、保証ではない。

# 少ない部品で、持ち歩ける。

特殊な製造設備や複雑な構造に依存しない設計。



留め具・棒・ストラップは、作り手や使い手が創意工夫できる。

| | | |
|---|---|---|
| 01 | 古ゴザ | 敷くための主役 |
| 02 | 留め具 | ロールを留める |
| 03 | 棒 | ストラップをかける構造 |
| 04 | ストラップ | 肩にかけて携行する |

# 丸める。まとめる。差し込む。留める。

4つの動作で、肩にかけられる。



01 丸める



02 まとめる



03 差し込む



04 留める

# 古ゴザには、使われてきた時間がある。

どの家で、どんな時間を過ごしてきたのか。古い素材には、新品にはない背景がある。



## 物語と衛生は、分けて考える。

古いこと自体が、
価値を損なうわけではない。

一方で、使う人の安心は欠かせない。
状態を見極め、再利用に向かない
古ゴザは使わない。

物語を生かすためにも、
素材の選別と説明を徹底したい。

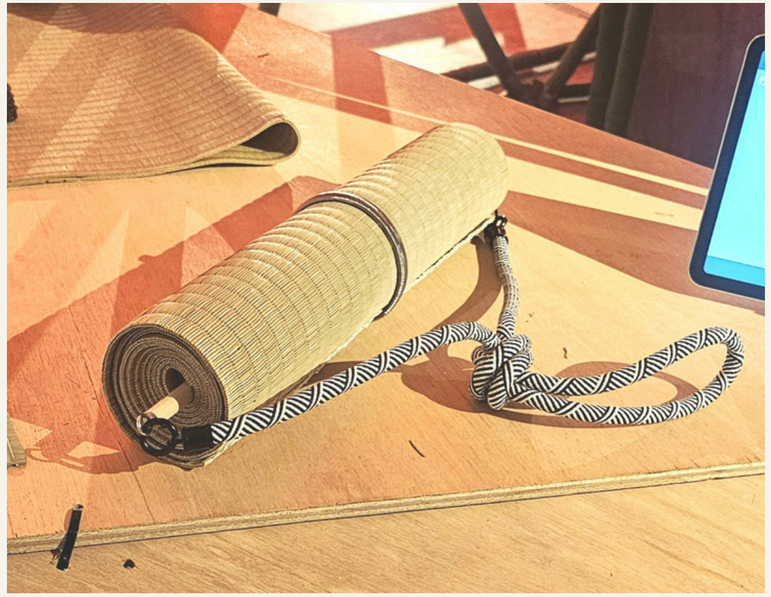
現状の除外方針：ペットの痕跡があるもの。カビ・湿気・汚れ・臭いなどの判断基準は要整備。

# 持ち歩く姿も、デザインの一部。

肩にかける。自転車で運ぶ。形や装いも、使う人の自己表現になる。



**街で持ち歩く**



**ストラップの工夫**




**自転車で運ぶ**

形・素材・棒・まとめ方・ストラップ。細部は自由に変えても良い。

# つくり方を共有し、
# 文化の土台を広げる。

01

## 各地の畳店

古ゴザから手軽につくれる

02

## 使う人

興味を持った人が畳店を訪ねる

03

## 作り手・使い手ごとの工夫

形・部品・装飾を自由に変える

製作方法の共有を検討中。全国の畳店での再現性や対応可否は、まだ検証できていない。

# 手に渡る方法は、ひとつじゃない。

広めるためにも、つくる畳店の手間や費用を無視しない。

| | | |
|---|---|---|
| 01 | **畳店に製作を依頼する** | 材料と製作の手間に見合った対価を支払う。 |
| 02 | **イベントで使う・渡す** | 実際に敷いて、使い方と出会える。 |
| 03 | **将来、畳店で交換する** | 使い切った古ゴザを張り替える構想。 |

提供方法・価格・交換条件は未定。継続できる仕組みを小さく検証する。

# 小さな遊びから、
# 文化の芽が生まれる。

誰かが使う。別の誰かが面白がる。
真似してつくる。独自に工夫する。

そんな小さな現象の繰り返しが
いつか自然な習慣になるかもしれない。

**多数派でなくてもいい。使う人が工夫を重ねる、小さなゴザ文化へ。**



# 広げる前に、解くべき課題。

「つくれる」と「無理なく届け続けられる」は違う。持続可能な条件を確かめる。

### 1 製作・供給負担

選別・加工・保管・引渡しの工程に
それぞれ時間と場所が必要になる。

### 2 衛生と品質

使用しない素材の判断基準と、
使い方の注意事項を整理する。

### 3 認知と入手方法

興味を持った人が、入手先や
問い合わせ先にたどり着ける仕組み。

### 4 使う人の反応

古ゴザへの抵抗感や、使い勝手の課題を
実際の利用者の声で切り分ける。

最初に確かめたいのは、素材の安全性と、畳店が無理なく製作・提供できる条件。

# 届けた枚数と、起きた変化を分けて見る。

配布数は活動量の指標。畳との新しい出会いは別に観察する。

REACH / 届ける

## 何枚、人の手へ？

製作数・配布数・使用場所。
どんな人に、どの経路で届いたか。
入手先の数と問い合わせの有無。

CHANGE / 起きたこと

## 畳との出会いは増えたか？

予想外の使い方や遊び。
畳への反応・会話・写真。
畳店への相談や新しい作り手。

どちらも観察する。数量だけでは「畳の種が芽吹いた」とは言えない。

# 次に、何を確かめるか。

理念を増やすより、まず安全に、無理なく、使ってもらえる条件を確かめる。

| | | |
|---|---|---|
| 01 | **素材の選定基準を決める** | 使わない古ゴザと使用上の注意を明確に |
| 02 | **製作時間と費用を測る** | 選別・加工・保管・引渡しまで記録 |
| 03 | **最小構造を検証する** | 省ける工程と必要な強度を確かめる |
| 04 | **少数を届け、観察する** | 敷いた場所・感想・次の使い方を記録 |

数を増やす前に、安全性・再現性・反応の3つを検証する。

# 畳の種は、
# 人の手で運ばれる。

使い方は決めない。場所も決めない。
誰かの遊びが、次の使い方を生むかもしれない。

**古ゴザを、もう一度人々の暮らしへ。まずは一枚、街へ。**

